

1歳児

年間目標

◎生活リズムが安定し、一日の保育の流れに沿って生活活動を自分でしようとする
◎歩行が完成し、安全で活動しやすい環境の中で自分なりの活動範囲を広げる
◎保育士に親しみ、感情を素直に表だし機嫌よく過ごす。友だちにも関心を示しかかわりが始まる。
◎自然物や身近な用具・玩具・遊具など興味を持ち、進んで遊んだり試したりする。
◎見立て遊びを楽しむ。
◎簡単な身のまわりのことをしようとする。

子どもたちの確かな育ちのために

1歳児期は、歩行の確立を始めとする運動機能の発達、片言から簡単な会話への言葉の発達、他者への関心の広がり、食事、排せつ、着脱などの基本的生活習慣への関心の芽生え、自分自身を表現する自我の伸長など、大きな変化を見せるときです。しかし、個人差が大きいので、保育士はひとりひとりの子どもの成長の様子や気持ちを受け止め、個々の子どもに合わせて、丁寧な援助をしていくことが大切です。子どもが安心して過ごせる和やかな環境と興味・関心をひき出すような環境を用意し、「比治山幼稚園大好き」「先生大好き」と感じられるよう、子どもの育ちに常に寄り添って保育し、見守りながらかかわっていきたいと思います。また、保護者との連絡を密にとり、信頼関係を大切にして、子どもの成長の様子を園と家庭とで共有し、喜び合いながら1年を過ごしていきたいと思います。

※「ねらい」及び「内容」は、5領域（健康、人間関係、環境、言葉、表現）の観点を意識して作成する。

	1歳～1歳6か月	1歳7か月～1歳11か月	2歳～2歳6か月	2歳7か月～2歳11か月
子どもの姿（発達過程）	●手づかみやスプーンでこぼしながらも自分で食べようとする。 ●睡眠は徐々に午後のみとなるが、午前中に眠くなることもある。 ●着替える時、自分から手や足を入れようとする。 ●歩けることを喜び、自分の行きたい所へ行く。 ●自分の名前がわかり、呼ばれると表情やしぐさ、声を出して返事をしたり手を挙げたりする。 ●少しずつ意味のある言葉が出てくる。 ●して欲しいことを身振りや表情、片言で知らせる。	●食事は、こぼしながらも自分でスプーンやフォーク持って食べる ●排泄した後、動作や言葉で知らせようとする。 ●身のまわりの簡単なことを自分でしようとする気持ちが出てきて、保育士の介助を「イヤ」と拒んだりする。 ●自由に体を動かすことを楽しみ、盛んに探索する。 ●友だちに関心を示し、側に行って触ったり、おもちゃを取るなどの行動が出てくる。 ●名前を呼ぶと声を出して返事をしたり、手を挙げたりする。 ●保育士の話しかけを喜んだり自分から片言で話すことを楽しむ。	●嫌いな食べ物を少しずつ食べてみようとする。 ●見守られながらトイレで排泄する。 ●一定時間、安心して眠れるようにする。 ●簡単な言葉で自分の思いを伝えようとする。 ●話すことを喜び、二語文、三語文が出てくる。 ●自分の欲求や主張を強く通そうとする。 ●クレパスやフェルトペンを使い、なぐり描きを楽しむ。 ●ズボン、靴下など簡単な着脱をしようとする。 ●保育士と一緒に簡単な歌を歌ったり、手遊びを楽しむ。	●食事のマナー（あいさつ・姿勢など）を知り、楽しく食事をする。 ●排泄・着脱など自分でしようとする。 ●大きい、小さい、ふたつなどがわかる。 ●自分のしたい事、して欲しい事を言葉で表したり、経験したことを話す。 ●簡単なごっこ遊びを保育士や友だちと楽しめるようになる。 ●絵本や紙芝居を楽しんで見たり聞いたりし、繰り返しの言葉の模倣を楽しむようになる。

	1期（4～6月）	2期（7～9月）	3期（10～12月）	4期（1～3月）
（養護ねーら教い育）	◎新しい環境に慣れ、安心して過ごす。 ◎個々のリズムに合わせた生活環境のなかで、快適に過ごす。 ◎不安や甘えの気持ちを保育士に受け止めてもらい安定して過ごす。 ◎保育士とのふれあいを喜んだり、一緒に好きな遊びを見つけて一日を楽しく過ごす。	◎食事や身のまわりのことを少しずつ自分でやってみようとする。 ◎保育士や友達言葉に興味をもち、まねて言うてみることを楽しむ。 ◎水・砂・土の感触を味わったり、保育士や友達と体を動かす遊びを楽しむ。	◎保育士に励まされながら、自分のことを自分でしようとする気持ちを持つ。 ◎保育士や友だちと言葉を使って、簡単なやり取りをしながら楽しむ。 ◎色々な遊びを通して全身を動かすことを十分楽しむ。 ◎秋から冬の自然にふれ、季節の変化を感じる。	◎身の回りのこと保育士に手伝ってもらいながら、できた喜びを味わう。 ◎気の合う友だちや保育士とふれあって遊ぶ楽しさを知る。 ◎保育士や友達と簡単な会話をしながら、一緒に遊ぶことを楽しむ。 ◎身近な生活の中で、保育士や友だちと簡単な言葉のやりとりを楽しむ ◎1つ大きいクラスになることを喜ぶ。
す内容（が経ら験）	○新しい環境のなか、保育士とのふれあいを通して安心して過ごすようになる。 ○保育士の援助でこぼしながらも手づかみやスプーンで自分で食べようとする。 ○保育士とふれあい遊びをしたり、自分の好きな遊びを楽しんだりする。 ○保育士の絵本の読み聞かせを聞き、喜ぶ。 ○保育士や友達と一緒に過ごすなかで人や物に興味をもってかかわろうとする。 ○保育士と一緒に探索活動や一緒に遊ぶことを楽しんだりする。	○食事や着脱など、身の回りのことを保育士に援助されながら、一緒にする。 ○保育士と水・砂・泥あそびや、音楽に合わせて体を動かすことを楽しむ。 ○保育士と一緒に絵本を見たり、手あそびを楽しむ。 ○保育士や友だちが言ったことをまねたり、見たものを言葉で伝えようとする。	○食事や着脱など自分でしたいという意欲が出てきて、自分でしようとする。 ○自分の要求を伝え、保育士に言葉で言い替えられ、生活や遊びの中で簡単なやり取りをする。 ○落ち葉や木の実などに触れながら、散歩や戸外遊びを十分に楽しむ。	○食事、排せつ、睡眠などで、自分でできることはしようとする。 ○尿が出たことを保育士に知らせる。 ○自分の気持ちを少しずつ言葉で表し、友達と同じ遊びを楽しむ。
保育士（環境構成）と配慮	◆ひとりひとりの情緒や生活リズムを把握し、子どもの要求や不安な気持ちを受け止め、信頼関係を築くようにする。 ◆ひとりひとりの食事量、食べ方、好き嫌いを把握し、援助する。 ◆好きなあそびを保護者から聞き取ったりして、子どもの手の届く所に遊具を用意しておき、保育士がそばで見守りながら安心して遊べるようにする。 ◆歩行が確立していない子もいるので、保育室内をはじめ子どもが遊ぶ場所は安全のために、常に片付けておく。	◆子どもの「自分で」という気持ちを大切にしながら「できた」という満足感を味わわせ、自分でしようとする気持ちを育んでいく。 ◆汗の始末や水分補給をこまめに行い、快適に過ごせるようにする。 ◆遊んだ後体を拭いたり、水分補給をこまめに行い、快適に過ごせるようにする。 ◆体調に十分留意して、夏のあそびを安全かつのびのびと楽しめる環境を作る。 ◆子どもの伝えたいことを言葉にして返し、気持ちの表現の仕方を伝え、言葉の表現へとつなげていく。 ◆子どもが喜ぶ音楽をかけて、保育士が踊ったり動いたりして遊びに誘う。	◆生活や遊び全般に「自分で」という気持ちが出てくるので、励ましたり見守ったりしながら意欲につなげ、出来た喜びに共感していく。 ◆友だちとのかかわりのなかで、自己主張やトラブルが見られるときは、保育士が互いの気持ちをくみ取り、言葉で伝えて仲立ちをする。 ◆子どもの興味をもつ自然物を一緒に拾い、「きれいだね」と共感したり、気温の変化を伝えたりして季節の移り変わりを知らせる。	◆出来た時は「できたね」と認め、自信が持てるように接していく。また自分でできないところは手伝ったり、やり方を知らせていく。 ◆友だちと遊ぶ楽しさが感じられるように、簡単なごっこ遊びで一緒にやり取りを楽しんだり、一緒に楽しめる遊びを提供する。 ◆友だちとのとのかかわりの中で、「ちょうだい」「貸して」「ありがとう」など自分の気持ちを言葉で伝えていくことを知らせていく。
の家庭連携と	・保護者の状況を理解して、日々のあいさつや登降園時の直接の会話、連絡ノートでのやり取りを大切にし、園での様子を丁寧に伝えていく。 ・お迎えの時子どもの様子を話し、成長の姿を共有していく。	・子どものやりたい気持ちを伝え、簡単な着脱などができるように働きかける。 ・月齢によって、暑い時期に戸外に出る経験が初めての子もいるので、夏の過ごし方や病気の予防、衣服の調節などについて丁寧に知らせる。	・薄着で過ごす習慣がつくよう衣服の用意や調節について伝える。 ・自我の芽生えや、個々の発達に合わせた援助の仕方などについて知らせる。 ・保育参加やクラス懇談会を通して、子どもの成長を確かめ合い、ともに喜ぶ。	・健康状態や、冬に流行する病気についての情報を丁寧に連絡し合う。 ・毎日のやり取りのなかで、1年間のひとりひとりの子どもの育ちを喜び合い、進級に向けて必要なことを話し合う。